

岡山に感謝絆の調べ

就実中・高と 演奏楽演奏会 復興へ願い込め

な音に変えて演奏できた。今度は大槌で合同演奏したい」とたたえ合った。(入野晶彦)

■本社HPに動画

AMD A支援の岩手・大槌高

東日本大震災で被災し、国際医療ボランティア・AMD A（本部・岡山市北区伊福町）が支援を続ける岩手県大槌町の県立大槌高と、就実中・高（同弓之町）の両吹奏楽部による「絆コンサート」が19日夜、岡山市内で開かれた。復興へ向け、同世代が心を通わせた調べが聴衆を魅了した。

大槌町では津波のため、住民約1・5万人の1割が死亡・行方不明になった。高台にある大槌高は被害がなかったが、避難所として

一時約千人が生活。診療活動に当たったAMD Aは、生徒対象の奨学金制度創設や、文具や制服を贈るなどして演奏会は支援へ

謝意を示すため同高が申し出。AMD Aの仲介で就実側が快諾、実現した。

演奏会で大槌高の14人は、希望を持って暮らしている被災者の思いを示そうと「明日があるさ」や東北地方にちなんだ演歌メドレーなど10曲を演奏。就実中・高の62人は復興支援への願いを込めた英国作曲家の吹奏楽曲「陽はまた昇る」など3曲でエールを送った。フィナーレはディズニーメドレーを合同演奏。両校の絆を感じさせるハーモニーに、会場を埋めた約350人が温かい拍手を送った。

就実高吹奏楽部長の荒島幸代さん(17)は「勇気付けるつもりが、逆に私たちが元気をもらった」。大槌高吹奏楽部長の臺隆裕君(17)は「これまで支えてくれた皆さんの力を大き

震災復興へ向け、同世代が音楽で絆をつないだ大槌高と就実中・高のコンサート

